

甲斐市議会 議会改革特別委員会 会議録

1. 開催日時 令和6年7月5日

2. 招集場所 甲斐市役所委員会室A

出席委員（7名）

委員長	金丸幸司君	副委員長	若尾彰子君
	保坂康君		樋口孝之君
	小澤重則君		松井豊君
	内藤久歳君		

議長 秋山照雄君

欠席委員（2名）

清水和弘君 滝川美幸君

傍聴議員（なし）

職務のために出席した者の職氏名

議会事務局長	中澤一昭	書記	森田公
書記	深澤隼人		

内容

- 1 中学生職場体験について
- 2 その他

開会 午前 9時55分

○書記（森田 公君） 改めておはようございます。ご参集大変お疲れさまです。

ただいまから議会改革特別委員会を始めさせていただきます。

初めに、委員長挨拶、金丸委員長よろしくお願ひいたします。

○委員長（金丸幸司君） 改めまして、おはようございます。ご参集大変お疲れさまです。

私ごとで大変恐縮ですけれども、昨日は県下で今年一番の暑さになったということで、また勝沼では37.5度ですか、全国で3番目に暑いなんていって、また熱中症で搬送されたなんてこともニュースで流れました。これから残暑も大変厳しくなりますので、各委員の皆様方には熱中症等、十分気をつけていただきたいと思います。

今特別委員会も改選されてから初めての委員会になります。引き続き、委員の皆様には大変お世話になりますが、よろしくお願ひ申し上げます。

○書記（森田 公君） ありがとうございます。

続きまして、議長挨拶、秋山議長よろしくお願ひします。

○議長（秋山照雄君） おはようございます。

私ごとですけれども、昨日、ゴルフ行ってきまして、本当に楽しくゴルフはしたんですけども、暑さに負けそうになりまして3時に終わって、そのまま真っすぐ家へ帰って、そのままずっと今朝まで寝ていました。おかげさんで今日は体調がいいです。

今日はそういうことで、議会改革委員会でございますけれども、改革の中学生の職場体験ということで、皆様にご協賛いただきますけれどもよろしくお願ひいたします。よろしくお願ひします。

○書記（森田 公君） ありがとうございます。

それでは、議事の進行につきましては金丸委員長、よろしくお願ひいたします。

○委員長（金丸幸司君） ただいまの出席委員は7名であります。定足数に達しておりますので、これより議会改革特別委員会を開会いたします。

なお、滝川委員、清水和弘委員は欠席の連絡がありましたので報告します。

それでは、内容に入ります。

(1) 中学生職場体験についてですが、こちらの件につきましては、改選前の改革の委員さんの方が委員会の中で、ある程度の道筋を決めていただきましたので、今年度は実施に向けての協議となりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、先に事務局より説明をお願いいたします。

森田係長。

○書記(森田 公君) それでは、中学生の職場体験についてご説明いたします。

資料につきましては、タブレット特別委員会議会改革特別委員会の資料になります。

1 ページをお願いいたします。

まず経過になります。全国的に小・中・高生を対象に議員・議員活動について、議員が講師になって行う主権者教育が活発に行われております。

本市議会でも先ほど委員長からありましたとおり、改選前の委員会におきまして、教育委員会と協議を進め、市内の中学2年生を対象に行っております職場体験の受入れ先の一つとして議会を入れていただき、希望した中学生に議員が講師となって及び議会体験等をしてもらったらどうかということの提案を基に行うものでございます。

内容につきましては、双葉中学校の実施要領を参考に掲載をさせていただきましたが、1の目的につきましては記載のとおりですが、2の時間につきましては朝8時から夕方5時までの間で、基本的には市役所の業務時間となります。

3の体験先ですが、生徒は1名から5名程度が参加となりますが、事業者の受入れが少ない場合は1か所に対する希望人数が多くなる場合があります。

次に、4のその他ですが、職場体験は学校が指定しました期間を体験の受入れとなり、2日間を予定しております。

2 ページをお願いいたします。

市内の中学校の実施状況ですが、一番上の竜王中学校、また2段目の玉幡中学校につきましては、既に終了をしております。今後予定されておりますのは、竜王北中学校、敷島中学校、双葉中学校の3校となっており、日程及び在籍人数は記載のとおりとなっております。

次に、本日ご協議いただく内容ですが、今年度の受入れについてどのようにしていくのかをご協議いただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

また、資料とは別に、同ホルダー内に地方議会が進める主権者教育の事例集を入れさせていただきました。こちらにつきましては、全国の議会で行っております県・市・町・村のそれぞれの議会で行っております主権者教育の事例集となっておりますので、そちらも参考に

お願いいたします。

説明は以上となります。よろしくお願いいたします。

○委員長（金丸幸司君） 説明が終わりました。

初めに説明にもありましたが、今年度まだ3つの中学校の職場体験が残っておりますので、その中でまずは何校を受け入れるのかを決めたいと思います。1校または2校と受入れ数を決めて毎年ローテーションで行うのか、それとも日程が合えば希望する学校を全て受け入れていくのかなど、委員よりご意見をいただきたいと思います。ご意見ありますでしょうか。

松井委員。

○委員（松井 豊君） この1事業所につき、生徒5名で参加されるのですが、この在籍数との関係はどんなふうになっていますか。

○委員長（金丸幸司君） 森田係長。

○書記（森田 公君） 在籍数につきましては、あくまでも2年生の数になります。この2年生が希望をしている受入れ先にそれぞれ5名程度で行きますので、例えば竜王北中学校であれば101名がそれぞれ5名ずつの班に分かれて約20か所に訪問するというような形になっております。

○委員長（金丸幸司君） よろしいでしょうか。そのほかご意見ありますか。

内藤委員。

○委員（内藤久歳君） そうすると、これは職場体験だから、議会に特化したもんじゃなくて、議会も全体の中の一つの中で誰かがこの百五十何名の生徒が議会に来るといふ、そういう認識でいいと。

○委員長（金丸幸司君） 森田係長。

○書記（森田 公君） そのとおりでございます。

○委員（内藤久歳君） なるほど。

○委員長（金丸幸司君） 内藤委員。

○委員（内藤久歳君） ということは、議会でその職場体験として受け入れるその内容をどんな形でやるかということは、今後詰めると思うんだけど。基本的にどういうスタイルでやるのか、その辺のところは今後やるのかな、その辺は。まず学校を決めて、内容については今後詰めるという流れでいいということ。

○委員長（金丸幸司君） 森田係長。

○書記（森田 公君） 資料の2ページになりますが、実施状況の下に本日の協議内容で、ま

ず受け入れる学校について協議をしていただき、次回以降の改革の中で体験中の講師、また2日間の内容について改めてご協議をいただく予定となっておりますので、よろしくお願いいたします。

○委員長（金丸幸司君） そのほか、ご意見ありますか。

樋口委員。

○委員（樋口孝之君） 私たち、今日初めて議会改革のほうへ出席させていただいたんですけども、今ここの中学校の実施状況を見ると、2校が121名、122名実施済みということになっているんですけども、竜王中学校と玉幡中学校の2校が体験のほうを終わったとそういうことで、この2校がどんなような状況だったのか、私もちょっと分からないんですけども、その状況をちょっと教えていただければなと思いますけれども。

○委員長（金丸幸司君） 森田係長。

○書記（森田 公君） 学校の受入れ状況につきましては、こちらのほうでは把握はしてございません。

ここにある3校の受入れ、日程がちょっとここにあるんですけども、竜王北中学校が10月22、23、敷島が10月29と30日、双葉中学校が11月13日なので、日程がこれ全部ばらばらなんです。なので、3つを受入れとなると、ありますし、本来だったら一緒だったら考えられるんですけども、これを1校にするのか2校にするのか、また3校にするのかということなんですけれども。

○委員長（金丸幸司君） 内藤委員。

○委員（内藤久歳君） 1つの案として考えられるのは、地域的なことを考えると竜王中学校、玉幡、竜王地区ということで既に終わっているということを見ると、あと3つも一緒にやるのが望ましいかもしれないけれども、竜王北と敷島中学校可能な日程というのが、もう1週間の間にあるということを見ると、竜王北があれば、地域的なことを考えると敷島と双葉2校ぐらいになって、29と11月、10月、11月という形になると思うので、その辺のところを考えたらどうかなというふうには思います。

○委員長（金丸幸司君） 若尾副委員長。

○委員（若尾彰子君） 3つの学校ということなんですけれども、中学生からその市議会が選ばれない、職場体験先として選ばれない可能性もなくはないと思いますので、希望があって日程が無理がなければ3校受け入れるのがいいんじゃないかなというふうに思います。

○委員長（金丸幸司君） 小澤委員。

○委員（小澤重則君） 当局のほうでこの日程的にどうなのか、3つ受けても大丈夫なのか、調整はきくんだろうけれども、その辺の議会の関係の辺をお願いします。

○委員長（金丸幸司君） 森田係長。

○書記（森田 公君） 現在のところ、竜王北中学校、敷島中学校、双葉中学校の日程につきましては、議会の予定は入ってございません。ただ、今後、各委員会の視察研修等が入ってくる場合につきましては、この辺の日程等を避けて行わなければならないようにはなるんですが、それ以外につきましては、今のところは入っておりません。

○委員長（金丸幸司君） そのほかございますか。

〔発言する者なし〕

○委員長（金丸幸司君） なければ、順次、各委員に諮っていきたいと思います。

既に内藤委員からは2校、敷島と双葉中学が。

内藤委員。

○委員（内藤久歳君） これについて、できれば同じようにやったほうがいいと思うけれども、先ほど事務局も言ったように、1週間のうち2回というふうになると大変じゃないかと。可能であれば、できるだけ多くの生徒にそういう機会を与えてあげるとするのはベターだと思います。だから、可能であれば3校やってもいいかなというふうに思います。

以上です。

○委員長（金丸幸司君） 森田係長。

○書記（森田 公君） すみません、補足させてください。

今年度、竜王北中学校と敷島中学校と双葉中学校を今後3校受け入れる場合、来年度につきましては、年度が替わりますので、そうなりますと竜王中学校、玉幡中学校も含めた5校から全て受入れをするのか。例えば、もう今年度から竜王北中学校と、例えば敷島中学校にするのか。例えば敷島と双葉をワンセット、竜王をワンセットにして、どちらかのセットから1セットずつにするのかというような形で、毎年同じやり方で今後やっていただくのが一番いいのかなというふうに思いますので、そこら辺のご審議をいただければと思いますので、よろしく願いいたします。

○委員長（金丸幸司君） その件について。

内藤委員。

○委員（内藤久歳君） これを進めていく上での方法として、一番いいものを選択していく必要があると思うので、やるほうとしては。大きく言えば、できるだけ多くということも基本

的になるわけだけれども、それを進めていく上で方法を今そこで1つのグループとして2校、3校という学校の中で、今後、継続的にやっていくことであればそういうルール化をして、それに基づいてやっていくというのは、今後に向けて分かりやすいというか、やりやすいということがあるので、そんなところを皆さんでご協議をいただければいいじゃないかというふうに思います。

以上です。

○委員長（金丸幸司君） 先ほど内藤委員が言われたように、これ、中学校とかして、全て受け入れるのが一番理想だと思うんですけども、やはりそうはいつでも日程的なものが今後ありますので。

若尾副委員長。

○委員（若尾彰子君） 心情としては、日程が合えば全て受け入れてあげたいなという思いはあるんですけども、今年度に関しても玉幡中学校は6月にやっているの、6月の定例会とかぶらないかなと来年以降が、ということがありますので、そのあたりが学校との議会の中とのスケジュール調整かなとは思いますが、スケジュールが合えば希望される生徒さんがいらっしゃるのでしたら受け入れたいなと思います。

○委員長（金丸幸司君） ありがとうございます。

先ほど言ったように日程さえ合えば、全ての学校を受け入れてもいいということだね。はい。

内藤委員。

○委員（内藤久歳君） だけど、これについては学校のほうで日程を、要するに職場体験というのは今までずっと継続してやってきた事業だと思うんだよね、学校の。それに対して、今度は議会が新たにそこに参入するという流れだと思うんだよね。だから、当然、その学校がこういう案を出してきた。それに基づいて議会がどんだけ、今度そこから先に行って、議会の日程になるわけだね。学校がこういう日程でやりますというのを示されて、それに対して議会がどこに受け入れるかということは、今度、議会が決めることだから。当然それに基づいて、今後継続していくことであれば、学校がまずこの日程を出してもらって、それに基づいて議会がどのぐらい対応できるか、それに基づいて全部できるとしたらやる。その中で無理だったら方法を考えるということにしたほうがいいのかなというふうに思うけれどもね。

○委員長（金丸幸司君） はい、分かりました。

〔「委員長、いいですか」と呼ぶ者あり〕

○委員長（金丸幸司君） 内藤委員。

○委員（内藤久歳君） ちなみに、この学校が職場体験ってやって、その新年度の計画案が出てくるのは、もう前年度に大体出てくるよね。その辺どう。

○委員長（金丸幸司君） 森田係長。

○書記（森田 公君） 基本的に、次年度の予定につきましては、多分、年を明けた1月から3月ぐらいまでの間に、大体おおよその予定は決めてくると思いますので。

先ほど、若尾副委員長もおっしゃられたように、玉幡中学校につきましては毎年この日程であると6月の定例会と重複する可能性がございますので、もし今回、希望する学校を全て受け入れるということであれば、学校側のほうに協議をさせていただいて、玉幡中学校も来年対象としますので、できれば時期を夏の少し7月頃にずらしていただくとか、秋にずらしていただくというようなことは、教育委員会のほうに議会事務局から提案のほうをさせていただきたいと思います。

○委員長（金丸幸司君） 内藤委員。

○委員（内藤久歳君） 今、事務局も言われたように、やっぱりこれって、ある程度、その日程調整は双方でしなければ、なかなかうまくいかないと思うんだよね。そこら辺のところは今、係長が言われたように、一応そういう方向でいくということの中で、日程調整については一任するということでもいいと思うんだよね。だから、今日については、今回についてどうするかということは決めて、今後の日程等の調整については、今後、事務局、それから学校側と調整をしてもらってやるというふうなことでいいんじゃないかなと思うんだよね。

○委員長（金丸幸司君） 小澤委員。

○委員（小澤重則君） 5校から希望が来て、5校を1年でやるのか。2年をまたいで5校をやるのか。その辺をこちらで決めたらどうでしょうかね。一遍に、1年に5校をやるということ、毎年5校をやるということになると、日程とか希望とかが合わなきゃできませんが、最大5校をやるという形になると、議会のほうで受け入れるのもなかなか大変だと思うので、2年、3年に分けて一周回るといような形をつくってルール化したほうがいいような気がするんですがどうでしょう。

○委員長（金丸幸司君） 例えば、今5校あるので、今年度は例えば3校で、来年度は残りの2校をやるというような感じということですね。

そのほかご意見ありますか。

〔発言する者なし〕

○委員長（金丸幸司君） なければ、順次、各委員の皆さんに聞いて。

まず、保坂委員からお願いいたします。

○委員（保坂 康君） 今ね、皆さんいろいろこう話が出ていますけれども、基本的にはやっぱり全校、全員が議会のところを見ていただきたいというふうな気持ちが物すごく強いです。やっぱり何も知らないで、こう大人になっていくよりも、やっぱり学校のうちに、やれたらいいかなど。

あと、今言われたように、1年に何校か一緒にこうできるということはできるんでしょうかね、セットで今、話が出ていたような。

○委員長（金丸幸司君） 森田係長。

○書記（森田 公君） 基本的にはそれぞれの多分、うちはいいかもしれないんですけれども、ほかの事業所が2校、3校を同時に受け入れるキャパがないと思いますので、基本的には各学校ごとになると思います。

○委員（保坂 康君） はい、分かりました。

確かに、うちばかりじゃないんですね、ほかのところもあるので、多分、ほかのところもこうやって日程が全部違うというのは、全部そこに受入れのところが1回には全部受け入れられないからということだと思えるんですけれども。

だから、今言ったように、それでしたら、やっぱり双葉・敷島一緒にして、ほかのところへ行ってできるかというところもあるんじゃないですかね、今、森田係長言われたように。これだけ日程が違って、こう出してくるということは。

ですから、本当言えば、こちらの都合からいえば一緒にやってもらえれば一番、事務的にも大変じゃなくていいと思うんですけれども。こういう形で日程が全部違うんでしたら、やっぱり先ほど言ったように、1年に5校、本当にそれが日程が合えさえすればいいとは思えるんですけれども、言われたように竜王地区と双葉・敷島地区で分けてというのもひとついいかなど。今ここで、僕がちょっとどっちがいいか判断つかないんですけれども、そういう方法もありかなというふうな思いだけですかね。どっちがいいというのはちょっとまだ、もう少し考えないと分からないのですみません、申し訳ないです。

○委員長（金丸幸司君） 小澤委員。

○委員（小澤重則君） これ5校あれば5日間やるという基本的には考えでいたほうがいいということですよ。2校と一緒にやるというわけにはいかないということでしょうね。

○委員長（金丸幸司君） 森田係長。

○書記（森田 公君） 基本的には一緒にはできないんですけれども、各学校、そこに記載してありますように2日間必要になりますので、全部で5校やりますと10日間、各学校2日間は必ずやっていただくという形になりますので、全部をやるとなりますと計10日間になります。

○委員長（金丸幸司君） 松井委員。

○委員（松井 豊君） 2点ほど質問ですが、職場体験当日の3日間とあるんですが、これ2日間じゃなくて3日間というのがちょっと分からないのと。

それから、議会で受け入れる場合、どのぐらいの時間とか内容がちょっとこうイメージとしていても出ないので。

○委員長（金丸幸司君） 森田係長。

○書記（森田 公君） 今回載せさせていただきました実施要領は、あくまでもこれ双葉中学校のベースにやっています。基本的に中学校では3日間のうち2日間を職場体験として充てますというふうなルールになっておりますので、その中のルールに基づいて、もう各学校がこの2日間を決めてきたということですので、日程はこういう形になっています。

期間中の大体、時間と流れにつきましては、1ページの2の時間にもございますが、おおむね朝8時から5時までの間というふうになっておりますが、基本的には受入れ先の勤務状況に合わせていただいて結構ですという話をいただいておりますので、例えば議会事務局で受け入れる場合につきましては、朝8時30分になかなか来ていただくというのは、自転車なんかで子供たち来ますので、例えば9時から4時半までというふうな時間を指定するのは、それが受入れ先で決めていただいていいというふうになっております。

例えば内容につきましては、今後ご協議いただくんですが、例えば1日目の半日は議会って何だみたいなことを勉強させて、例えば午後ご飯食べた後に、みんなが疑問に思っていることとか、市に対して聞きたいことって何かあるかなみたいなのを例えば幾つもピックアップさせてもらう。例えばそれを改革の議員さんたちが生徒について、その疑問に思ったことを一般質問形式みたいに、例えば勉強させてあげる。そして、2日目の午前中に模擬議会みたいなものを開いて、その子がその疑問に思っていることを一般質問を受けるという形で本会議場で議員さんなりを相手にやってみると。後半はそれを振り返ってみてどうだったかみたいなのをやるというようなカリキュラムみたいなのも、今後、議員さんたちで設定していただいて、大体それが決まれば、受け入れる5校全て同じような流れでやっていくというようなことを考えております。

以上です。

○委員長（金丸幸司君） よろしいですかね。

松井議員、ここで最終的に今後何校、今5校あるんですけども、今後、どういうふうな感じでやっていくかというのを、ちょっとその辺についてお答えを。

○委員（松井 豊君） 先ほど、内藤さんが言ったように、敷島中学と双葉中学、これを優先でやったらどうかなと思います。

○委員長（金丸幸司君） 今年はね。

この1年、今後これやっていく。じゃ、来年はこの5校をどうしていくかということについて。

松井議員。

○委員（松井 豊君） 一応、年間通して一通り受け入れるというのでいいかなと思いますけれども。議会の合間を縫いながら。向こうも都合があると思いますが、一応そんな感じです。

○委員長（金丸幸司君） 日程が合えばということですよ。はい。

最後には、じゃ、樋口委員。

○委員（樋口孝之君） 皆さんと意見がほとんど同じなんですけれども、私の意見としても、本当は5校ですね、1年間に来ていただいて、議会活動を見ていただくということに一番理想なんですけれども。一応、議員の日程等、議会の日程等がありますので、私としては年間3校、2校、今年は3校、来年は2校ということで、一遍に1年に5校でなくて、3の2というふうに分かれて。

内容的には、もうその内容が、私どういうことをやるかということが一番重要だと思います。今見ると、次のページにありますけれども、他町村とか県議会とかいろいろなことで開催をしているところを、また参考に見ながら私も勉強しながら、そういう内容を充実していきたいなと思いますので、その辺は3の2で私はいったらいいのかなと思いますけれども。

○委員長（金丸幸司君） はい、分かりました。

もう一回。

内藤委員。

○委員（内藤久歳君） 今年については、既に2校は終わっているという形になるんですけども、先ほど私も地区をとということ言ったんですけども、一応、事業の中身とすれば、3校残っているであれば3校受け入れて今年やって、次の年度については、できれば時間的な負荷も結構かかると思うんですけども、やっぱりその同じ基準で同じ学年でもって、甲斐市の

中学校に対する主権者教育という基本的なことを考えると、やっぱりこっちが日程が大変じゃなくて、やっぱり将来のことを考えたときに、そういうものをきちっとやって、その年代の人たちに理解を求めたりしてもらおうということを継続的にやる意味においては、ちょっと議会も大変だけれども、やっぱりそういうことをやっていかないと、主権者教育なんていうのはなかなか成熟していかないと思うんだよね。だから、その辺を議会として、また我々がどういうふうにするかという本気度が試される部分かもしれない。だから、そういうことを考えると、時間的なもの、事務局あるけれども、やっぱりそれは議会としてどんだけの心意気を持って臨むかという、そこに尽きるかなというふうに私は思いますけれどもね。その辺のところをまたみんなで検討して。

○委員長（金丸幸司君）　じゃ、希望とすれば、日程さえ合えば全校受け入れるということで、はい、分かりました。

再度、じゃ、もう一度。

小澤委員。

○委員（小澤重則君）　では、私は日程的にも10日間ということになると大変だと思っていたんですが、皆様が全部受け入れようということであれば、それでも結構でございます。

○委員長（金丸幸司君）　じゃ、最後に若尾副委員長。

○委員（若尾彰子君）　そうですね、もう中学2年生14歳というのと、もう4年後には選挙権を持つ年代ですので、甲斐市の主権者教育、いずれ甲斐市の未来を決めていく世代の子供たちに対して、市議会がどういうふうやっていくかというの、非常に重要なところだと思いますので、スケジュールが合うならば本当に全て希望する学校を受け入れていきたいと私は思っています。

○委員長（金丸幸司君）　はい、分かりました。

貴重なご意見ありがとうございます。

皆さんの意見を聞く中で、日程さえ合えば全ての学校を希望を受け入れるといった内容がありますが、この内容に全て、いきたいと思いたすがよろしいでしょうか。

〔発言する者なし〕

○委員長（金丸幸司君）　それでは、そのように決定いたします。

そうしましたら、次に事務局は教育委員会への報告をお願いいたします。

次に、今後の流れについて事務局からお願いいたします。

森田係長。

○書記（森田 公君） それでは、今後の協議内容につきましてご説明させていただきます。

ただいま決まりました内容につきましては、教育委員会に報告をさせていただきます。それにより、各学校から生徒の希望調査を行い、受入れ人数等が報告をされてくるかと思えます。こちらといたしましては、人数に関係なく2日間をどのようなカリキュラムで、どういった方法で、また誰が講師で行うかなどを今後決めていただき、それぞれの学校に対して教育をしていきたいというふうに思っておりますので、ご協議をお願いいたします。

説明は以上でございます。

○委員長（金丸幸司君） 説明が終わりました。

今後の流れにつきましては、すぐに意見といってもなかなか難しいかと思っておりますので、次の議会改革特別委員会において協議をしたいと思っておりますが、委員におかれましてはどのようなことを中学生に教えたいか、また経験していただきたいか等を考えていただければと思いますので、よろしくをお願いいたします。

この件について、皆さんのほうで何かご意見あったらお願いします。

○委員長（金丸幸司君） 内藤委員。

○委員（内藤久歳君） 中学校のほうに教育委員会のほうから要請をすると思うんだけど、それについては、例えば職場体験で、生徒に希望を取って学校が決めるということなのか、それとも学校のほうで生徒を割り振ってくれるのかというのは、そんなことはないと思うけれども、生徒の希望であれば議会なんか行きたくない、ゼロという可能性も極論だけれどもあるわけで。その辺のところは、学校サイドで誰か割り振ってもらうというのは、そういう段取りはできるというか、そういう段取りになっているの。

○委員長（金丸幸司君） 森田係長。

○書記（森田 公君） まさに今、内藤委員が懸念されることは、既に学校側と協議を進めておりまして、基本的には学校側で生徒の希望を取っていただけます。基本的には各職場ゼロということはないように割り振っていただけるということですので、最低5名ぐらいは各学校から来るというような形になっております。

○委員長（金丸幸司君） そのほか、この件について。

松井委員。

○委員（松井 豊君） こういう体験学習で、よその自治体なんかで例があれば参考にできればと思いますけれども。

○委員長（金丸幸司君） 先ほど事務局からあったように、タブレットの中に地方議会が進め

る主権者教育の事例集というのがありますので、ぜひそれを見て今後、参考にさせていただけたらというふうに思いますので、よろしく願いいたします。

そのほか意見。

保坂委員。

○委員（保坂 康君） 先ほど、内藤さん言われたようにゼロということはないんですけども、逆にいっぱいということもあるんですけども。5名のグループで何チームも行きたいとかいうケースも、どうなんですか、その辺は。

○委員長（金丸幸司君） 森田係長。

○書記（森田 公君） やっぱ学校側が懸念しているのは、受入れ先が年々少なくなっていることと事業所が。事業所がその日程で万が一少ない場合につきましては、人数が多くなる場合もあるということは聞いております。特に市役所ですので、一番、人数的に受入れが可能な施設になりますので、事業所の受入れ状況にもよりますが、そういうこともあります。

○委員長（金丸幸司君） そのほか、これについて。

若尾副委員長。

○委員（若尾彰子君） 今後のその内容を詰めていくんですけども、次回の日程なんかも、あまりぎりぎりですと私たちのほうの準備なんかもありますので、できるだけちょっと8月、9月と忙しいのですが、早めにやれたほうがいいなと思います。

○委員長（金丸幸司君） 森田係長。

○書記（森田 公君） 日程につきましては、来月、定例会がもう予定されておりますので、定例会中に一度、改革の特別委員会を開催させていただきまして、皆様にどういった内容でやっていくかというのを各自お持ち帰りいただいてご検討いただいた結果を基に決めていきたいなというふうに思っています。子供たちもその間は夏休み期間中ですので、特に希望等進むことはございませんので。あくまでも、こちらからはもう受け入れますよということを学校に報告すれば、あと学校側からは生徒の報告だけですので、次回の定例会期間中の特別委員会、また9月の特別委員会を開催する中で、内容を決めていきたいなというふうに考えております。

○委員長（金丸幸司君） そのほか、こちらについて。

内藤委員。

○委員（内藤久歳君） 今ちょっと意見が出たんですけども、受入れ人数に対して、今ちょっと心配したのはその職場体験事業の中で、受け入れる事業所が少なくなっちゃってという話

があったんですね。ということは、議会なんか比較的受入れ人数が多く宛てがわれるという部分もあると思うので、大体そのマックスの人数、例えば今5人って言っているけれども、その状況になると誰かに職場体験をさせることになると思うので割り振らなきゃいけないね、この生徒をといたときに、うちがどれぐらいの人数を受け入れられるかという、そこが重要なポイントになると思うんだよね。そこら辺のところもしっかりとやって。

だから、今そういう課題というか、そういうものが出たときに、先にうちが議会としてマックスで最大で受け入れられる人数はこれぐらいですよということを示しておかないと、少ないから、じゃ、みんな議会へということになっちゃうから、その辺のところの人数もある程度こう、学校のほうに言っておいたほうがいいのかもかもしれないね。その辺のところはちょっと事務局のほうで検討をしてやらないと、今度、来ました、できませんじゃ困るから、最初からそういう人数を示しておいて調整してもらおうということの、担保を取っておいたほうが良いような気がする。その辺検討してもらって。

○委員長（金丸幸司君） 森田係長。

○書記（森田 公君） はい、ありがとうございます。

人数につきましては、当然、模擬議会をする場合につきましても議場でやりますので、今の議員さんの人数が最大だと思っていますけれども、さすがにそこまでは受け入れができませんので。議会改革の委員さんたちが基本的にはメインになって講師になっていただくとしみますと8人から9人、最大でも10人前後ぐらいがいいのかなというふうに思っております。

当然、改革だけではできませんので、議会、議運、全協なりにかけて議員全員で協力していただきますと、それぞれの生徒に1人ずつ議員さんたちがついてやるのであれば、15ぐらいがマックスかなというふうに思っておりますので。また、その辺は委員長と協議をしていながら、人数のほうは決めていきたいなと思いますけれども、大体15人前後、そんなに希望してくるところはないとは思いますが。10人いてくれれば本当にありがたいなと思いますけれども、マックスそのぐらいでというふうなことを事務局では考えております。

以上です。

○委員長（金丸幸司君） 先ほどの受入れの人数の枠についてはやっぱり明確にしておいたほうが良いと思いますので、これ我々一緒に事務局と協議していきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

そのほか、ご意見。

若尾副委員長。

○委員（若尾彰子君） 今、森田係長からもあったんですけれども、受入れ人数によっては講師のほうも、例えばほかの何か公務が入ってきた場合にも、私たち議会改革の議員だけでは対応し切れない部分もあると思いますので、そういった意味でもマンパワーの意味でも、ほかの議員さんにも声をかけて協力を仰ぐということも必要かなと思いますし。あとはタブレットに入っている資料にもありましたが、政治的な中立を保つという意味でも、ここにいる議員だけではなくて、議会改革以外の議員もこういった講師の中に入るのが望ましいかなと思います。

○委員長（金丸幸司君） 分かりました。その件についても、先ほど。

小澤委員。

○委員（小澤重則君） 今までも議会改革はいろいろ計画をやったりするので、全員で対応するというのが基本だと思いますので、それでよろしく願いいたします。

○委員長（金丸幸司君） はい、分かりました。

じゃ、その方向でやるように検討していきますので、よろしく願いいたします。

そのほかありますか。

樋口委員。

○委員（樋口孝之君） 今、議会改革でもいろいろして素晴らしいことなんですけれども、1年間に5校やるということにほとんど決定したんですけれども。これ見ると5校で1年間に10日間やるということで、中学生、これ希望なんですけれども、中学校が5校やるということであれば、私たちも小学校ですね、高学年の4年生・5年生ぐらいの対象に、小学校たくさんありますけれども、小学校のほうも将来的には4年生・5年生ぐらいの対象を、もし希望する学校があればかなえてあげたいなということで、私の希望と要望です。

○委員長（金丸幸司君） 要望ですね。はい、分かりました。

そのほか。

[発言する者なし]

○委員長（金丸幸司君） ないようですので、以上で中学校職場体験についてを終わります。

ここで暫時休憩いたします。

休憩 午前10時34分

再開 午前10時35分

○委員長（金丸幸司君） ここで会議を再開いたします。

次に、（２）その他を行います。

初めに議長よりお願いいたします。

秋山議長。

○議長（秋山照雄君） 私から１点お願いいたします。

現在、甲斐市議会運営に関する基準の313ページにおいて、議場における議員に対する敬称は性別を問わず「君」とするとあり、議場においては議員に対し「君」で呼んでいるところですが、お手元に配付しました新聞の記事のとおり、全国的に敬称を「君」から「さん」や「議員」に変更している議会が多くなってきております。県内でも幾つかの市で「議員」としており、ジェンダーの１点からも女性議員が多くなってきており、「君」と呼ぶのは上から目線であり、少し強い感じがすることから、「君」ではなく「議員」に敬称を変更したいと考えております。

つきましては、一度、委員の皆様にお考えをいただき、ご協議いただければと思いますので、よろしく申し上げます。

私からは以上です。

○委員長（金丸幸司君） 議長からの説明が終わりました。

今回は議長からの提案であります。意見をいただき、すぐに結論というような内容ではありませんので、委員におかれましては調査や考え等をまとめて、会派等でまとめていただき、次回の特別委員会においてご協議を行いたいと思いますが、いかがでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（金丸幸司君） 異議なしであります。

それでは、そのようにいたしたいと思いますので、よろしくようお願いいたします。

その他、委員より何かありますか。

内藤委員。

○委員（内藤久歳君） 今回の確認だけでも、一応、各会派等で協議をして、次の特別委員会で決定をするという流れでいいのかな。

○委員長（金丸幸司君） 森田係長。

○書記（森田 公君） 基本的には改革としての意見をまとめていただきまして、その後、議運、全協にお諮りをしたいと考えております。

○委員長（金丸幸司君） 内藤委員。

○委員（内藤久歳君） で、これ、この呼称については議員提案の中にこううたってあるのかな。

○委員長（金丸幸司君） 森田係長。

○書記（森田 公君） 先ほど議長が説明いたしましたが、議会運営に関する基準の313項の中に、まさに、議場における議員に対する敬称は性別を問わず「君」とするという一文がございますので、もし改正する場合につきましては、そちらのほうも併せて改正のほうをさせていただきたいと思います。

○委員（内藤久歳君） はい、了解です。

○委員長（金丸幸司君） そのほかありますか。

[発言する者なし]

○委員長（金丸幸司君） なければ、その他を終わります。

その他、事務局ありますか。

[「ありません」と呼ぶ者あり]

○委員長（金丸幸司君） ないようですので、以上でその他を終了いたします。

以上をもちまして、本日の日程は全て終了いたしました。

これをもちまして議会改革特別を閉会といたします。

ご苦労さまでした。

閉会 午前10時38分